

主食パターン転換構造の メカニズムに関するコウホート分析

内 野 澄 子

はじめに

食生活に関する研究は学際的研究課題として今日ようやく広く研究者の関心をよぶに至った。それは、栄養、疾病、健康、死亡あるいは出生力に関連するトピックとして、また生活の質 (quality of life) の重要な要素として、さらに人口移動、人口都市化の食生活への影響の問題として、いわば広く人口変動との相互関係の領域の問題としての認識である。最近における注目すべき研究としては、Watsonらによる Health, Population, and Nutrition: Interrelations, Problems, and Possible Solutions¹⁾ があげられよう。

I 本稿の目的と方法

食生活自体は極めて複雑である。食事の献立は朝食、昼食、夕食と1食ごとに異なり、また日により、季節により、かつ外食機会の増大により、その構造は変化していく。筆者は、じゅうらいこの食生活の変化を、主食パターンによって代表させる方法を採用してきた。日本人の食生活の変化は、この主食パターンの変化を通じてほぼとらえることができるとの考えにもとづいている。しかし、このばあい1日3食の主食の組み合わせをみるのが特に必要である。この1日3食の主食の組み合わせは、日本人の食生活の特徴をみる上において有用である。

筆者は、長年にわたって行ってきたこの種の調査において、日本人の食生活における主食パターンの変化、特に3食米飯パターンという伝統的なパターンの著しい減少、あるいは朝パン食で昼・夕米飯パターンの増大という変化についての詳細な分析を行ってきた。年齢別、男女別、教育程度別、職業別あるいは地域別、さらにまた人口移動の主食パターン選択への影響等の研究を行ってきた。

しかし、ある主食パターンの増加、減少というばあい、それはある期間の始期と終期を比較したばあいに得られる純増加あるいは純減少である。たとえば、ある時点において3食米飯パターンのものが100人いたとして、5年後に80人になったという事実は、この期間に3食米飯パターンをとるものが20人減ったという結果を示している。しかし、現実には、この期間内において3食米飯パターンから離脱していくものと新しく他の主食パターンから3食米飯パターンへ参入してくるものがあると考えられる。これは人口移動における転入と転出に類似する現象である。転入と転出の差としての純増加あるいは純減少しかとらえられていないというのが今までの主食パターン変動分析手法であった。あ

1) Walter Watson, Allan Rosenfield, Mechai Viravaidya, and Krasae Chanawongse, "Health, Population, and Nutrition: Interrelations, Problems, and Possible Solutions", in *World Population and Development: Challenges and Prospects*, edited by Philip M. Hauser, Syracuse University Press, 1979, pp.145~173. 邦訳 (黒田俊夫監修), 『世界人口と開発—挑戦と展望—』, 時潮社, 1985, 第6章「健康, 人口および栄養とそれらの相互関係, 諸問題とその可能な解決方法」, pp.171~205.

る主食パターンの増加、減少の分析においてもこのような離脱、参入の転換構造の研究を行うことが必要である。その転換構造が地域によって異なることを明らかにすることが本研究の目的である。ここでの研究の材料は、昭和56年度実施調査「人口移動と定住に関する調査」²⁾で対象となった仙台市、石巻市、古川市（以上宮城県）、熊本市、八代市、荒尾市（以上熊本県）の6市の調査結果であって、これを以上の目的のために新しく再集計を行った。

II 調査対象都市の主食パターン

1 3食米飯パターン分布構造

まず、大都市としての仙台市、熊本市と共に、中小都市の石巻市、古川市および八代市、荒尾市についてはそれぞれ一括して3食米飯パターンの分布構造を年齢別に示すと表1の如くである。

宮城県と熊本県の特徴がこの3食米飯パターンにあらわれている。仙台市の3食米飯パターンの割合はどの年齢においても熊本市よりも低いことと、宮城県の石巻市・古川市計の3食米飯パターンの割合は、熊本県の八代市・荒尾市計のそれよりも低いことである。

しかし、大都市のこの割合が中小都市よりも低いことは両県に共通である。熊本市の35～39歳およびそれ以上の年齢層ではすべて50%以上の3食米飯パターン率を示しているのに対して、仙台市では40～44歳の42%を除くとすべてほぼ30%台の低水準にある。著しい地域差の存在を示している³⁾。

表1 都市別、年齢別3食米飯パターン

年齢別	仙 台 市			石 巻・古 川 市 計			熊 本 市			八 代・荒 尾 市 計		
	総 数	3 食米飯	割合	総 数	3 食米飯	割合	総 数	3 食米飯	割合	総 数	3 食米飯	割合
20-24	269	68	25.3%	420	193	46.0%	182	56	30.8%	355	179	50.4%
25-29	260	62	23.8	550	266	48.4	160	72	45.0	441	238	54.0
30-34	269	76	28.3	658	345	52.4	215	92	42.8	618	354	57.3
35-39	181	62	34.3	598	355	59.4	141	73	51.8	473	311	65.8
40-44	149	62	41.6	604	364	60.3	133	71	53.4	444	318	71.6
45-49	172	54	31.4	672	401	59.7	179	103	57.5	526	374	71.1
50-54	151	56	37.1	622	374	60.1	156	83	53.2	538	390	72.5
55-59	135	44	32.6	424	240	56.6	132	80	60.6	547	369	67.5
60-64	108	42	38.9	291	158	54.3	155	103	66.5	414	285	68.8
計	1,694	526	31.1	4,839	2,696	55.7	1,453	733	50.4	4,356	2,818	64.7

2 コウホート別にみた主食パターンの不変率

次に、それぞれのコウホート別に3食米飯パターン、朝パン食パターンおよび朝欠食パターンの3種類についてそれがどの程度維持されているか、いいかえれば不変率についてみると表2（仙台市）、表3（熊本市）の如くである。主食パターンの中で特に注目すべきものとしてこの3つのパターンを対象とし、その他のパターンについてはここでは省略しておいた。

古いコウホートほど3食米飯パターンが不変のまま維持される率は高く、また仙台市と熊本市との間によられる差も小さい。しかし、新しいコウホートになるほど3食米飯パターンの不変率は熊本市において高い傾向がみられる。たとえば、仙台市の昭和27～31年コウホートが、20～24歳時にとって

2) 厚生省人口問題研究所、『昭和56年度、人口移動と定住に関する調査報告書』、1982年2月、pp.109～141。

3) 内野澄子、「地方都市人口の変動と食行動」、『人口問題研究』、第172号、1984年10月、pp.1～23。

表2

(イ) 仙台市：コウホート別3食米飯パターン不変率

(%)

年 齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-10
20～24→25～29	64.0	63.5	68.1	80.9	84.8	91.7	93.8	92.4
25～29→30～34		72.3	73.6	72.0	85.7	82.7	92.7	97.7
30～34→35～39			82.5	82.3	77.0	91.1	91.2	87.8
35～39→40～44				96.3	82.1	83.3	86.7	91.1
40～44→45～49					89.1	73.6	79.2	83.6
45～49→50～54						88.9	69.0	79.0
50～54→55～59							90.2	82.0
55～59→60～64								88.9

(ロ) 仙台市：コウホート別朝パン食パターン不変率

(%)

年 齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-10
20～24→25～29	72.3	62.9	63.2	71.4	100.0	50.0	60.0	-
25～29→30～34		69.0	70.8	75.0	71.4	66.7	75.0	-
30～34→35～39			84.8	73.7	87.5	50.0	60.0	-
35～39→40～44				81.8	69.6	71.4	100.0	100.0
40～44→45～49					88.2	77.8	100.0	60.0
45～49→50～54						86.7	100.0	85.7
50～54→55～59							94.1	85.7
55～59→60～64								77.8

(ハ) 仙台市：コウホート別朝欠食パターン不変率

(%)

年 齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-10
20～24→25～29	47.2	48.7	83.3	25.0	66.7	100.0	-	-
25～29→30～34		63.3	31.3	50.0	66.7	75.0	-	-
30～34→35～39			66.7	66.7	80.0	33.3	-	-
35～39→40～44				100.0	100.0	100.0	100.0	-
40～44→45～49					88.9	100.0	100.0	-
45～49→50～54						100.0	100.0	100.0
50～54→55～59							100.0	100.0
55～59→60～64								100.0

表3 (イ) 熊本市：コウホート別3食米飯パターン不変率 (％)

年 齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-10
20～24→25～29	78.2	76.7	86.5	96.9	92.8	98.5	96.6	93.4
25～29→30～34		74.5	82.0	86.3	90.9	92.0	96.6	93.7
30～34→35～39			84.3	81.1	91.0	93.1	96.6	97.7
35～39→40～44				90.5	83.2	87.3	94.8	96.9
40～44→45～49					90.0	81.4	91.8	96.9
45～49→50～54						85.1	83.5	90.6
50～54→55～59							89.5	89.0
55～59→60～64								93.5

(ロ) 熊本市：コウホート別朝パン食パターン不変率 (％)

年 齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-10
20～24→25～29	80.6	64.3	71.4	75.0	50.0	100.0	100.0	100.0
25～29→30～34		78.9	75.0	90.0	87.5	100.0	100.0	33.3
30～34→35～39			88.5	91.7	73.3	75.0	50.0	100.0
35～39→40～44				90.0	77.8	100.0	75.0	80.0
40～44→45～49					82.6	52.9	80.0	100.0
45～49→50～54						77.8	100.0	100.0
50～54→55～59							91.7	83.3
55～59→60～64								88.9

(ハ) 熊本市：コウホート別朝欠食パターン不変率 (％)

年 齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-10
20～24→25～29	69.6	51.5	66.7	—	100.0	100.0	—	—
25～29→30～34		69.6	66.7	—	66.7	50.0	—	—
30～34→35～39			77.8	100.0	66.7	33.3	—	—
35～39→40～44				60.0	50.0	—	—	—
40～44→45～49					87.5	75.0	—	—
45～49→50～54						40.0	—	—
50～54→55～59							100.0	100.0
55～59→60～64								100.0

いた3食米飯パターンを5年経過した25～29歳においてもなお維持したものは64.0%にすぎないが、熊本市のばあいは78.2%と著しく高い。かなり古い昭和7～11年および昭和12～16年コウホートでも20～24歳から25～29歳に至るまでの期間に3食米飯パターンを維持したものの割合は、熊本市の90%以上に対して仙台市では80～85%と低い。

朝パン食パターンについてみると、不変率は一般に熊本市の方が高い。これは3食米飯パターンの不変率が熊本市において高いため、朝パン食パターンのものは最初から少ないこと、つまりそれだけ強い選択があったためにそのまま維持するものが多いという結果となっているように思われる。

朝欠食パターンという不規則なパターンについてみると絶対数も少ないだけに両市の比較はこんなんである。しかし、最近のコウホートについてみると、熊本市の方が維持される率が高いように思われる。昭和27年～31年のもっとも新しいコウホートでは20～24歳の時に朝欠食パターンをとっていたものが5年経過した25～29歳においても熊本市では70%のものが維持しているのに対して、仙台市では半分以下の47.2%と減少している。熊本市では仙台市に比較して3食米飯パターン率が一般に高いため、他の主食パターンは比較的少ないが、この少なく選択された主食パターンはそれだけに始めからかなり強い希望意識によったものと思われ、一度選択されるとそれが維持される割合が高くなるものと推測される。

Ⅲ 3食米飯パターンからの転換構造

次に、3食米飯パターンの減少が生じるばあい、どのような主食パターンに転換していくかは特に注目される。まず、20～24歳時に3食米飯パターンであったもの全体について、3食米飯パターンを維持してきた不変のものと、変化したものに区分し、さらに変化したものについて、どのパターンに転換していったかを各都市別に示すと表4の如くである。仙台市で変化したものが56.1%と半分を越えているが、熊本市では40%以下の38.6%と低い。

転換した主食パターンの分布をみると、仙台市と熊本市で著しい差異がみとめられる。仙台市で転換の対象となったもっとも主要な主食パターンは昼めん・朝夕米飯パターンであって、変化したものの40%を占めている。この転換傾向は熊本市と比較して極めて特徴的である。熊本市のばあい転換する主食パターンの最大のもの朝パン食パターンであって、36.4%を占めている。仙台市で2番目に主要な転換主食パターンは朝パン食パターンであり、26%を占めている。また熊本市の第2の転換主食パターンは昼めんパターンであって、約25%を占めている。仙台市では転換主食パターンが昼めんを中心とし次いで朝パン食パターンとなっているのに対して、熊本市では朝パン食パターンを中心と

表4 都市別にみた3食米飯パターンからの変化

主食パターン	仙 台 市		石 巻・古川計		熊 本 市		八代・荒尾計	
20～24歳時3食米飯パターン	777人	100.0%	3,404人	100.0%	921人	100.0%	3,163人	100.0%
不 変	341	43.9	2,169	63.7	567	61.8	2,263	71.6
変 化	436	56.1	1,235	36.3	354	38.6	900	28.5
a) 朝米飯・昼めん・夕米飯へ	174	22.4	601	17.7	87	9.5	225	7.1
b) 朝米飯・昼パン・夕米飯へ	68	8.8	263	7.7	74	8.1	211	6.7
c) 朝パン・昼米飯・夕米飯へ	113	14.5	217	6.4	129	14.1	283	9.0
d) 朝欠食・昼米飯・夕米飯へ	39	5.0	59	1.7	32	3.5	110	3.5
e) 朝パン・昼めん・夕米飯へ	27	3.5	41	1.2	13	1.4	26	0.8
f) そ の 他	15	1.9	54	1.6	19	2.1	45	1.4

備考：各コウホートの20～24歳時の3食米飯者を合計したものを100.0とした。

して次いで昼めんパターンとなっており、興味深い対照を示している。熊本市のばあいさらに注目すべきは昼パン食パターンが昼めんパターンに次いで多いことである。したがって、昼めんあるいは昼パンパターンを合計すると45.5%となり、朝パン食パターンよりも多くなる。朝夕は米飯で昼をめんあるいはパンをとるパターンへの転換という観点からみると熊本市も仙台市と同じ傾向であるといえる。しかし、仙台市のばあい昼パン食パターンへの転換は著しく少なく、圧倒的に昼めんパターンへの転換が多いという際立った特徴がみられる。

3食米飯パターンからの転換をコウホート別に示すと表5（仙台市）、表6（熊本市）の如くである。仙台市についてみると、昭和27～31年と昭和22～26年のもっとも新しいコウホートでは他のコウホートとは異なって、朝パン食パターンへの転換がもっとも多く、転換者の40%前後を占めていることが注目される。しかし、昭和17～21年より古いコウホートではすべて昼めんパターンへの転換がもっとも多く、昭和17～21年コウホートの36%を除くとその他はすべて40%ないし50%といった高水準を示している。さらに注目すべき点は、この昭和17～21年より古いコウホートでは（大正6～10年コウホートを除き）第2の転換主食パターンが朝パン食パターンであるということと、昭和27～31年と昭和22～26年のコウホートでは朝パン食パターンに次ぐものは朝欠食パターンであるということ、昭和17～21年のコウホートの朝欠食パターンが昭和22～26年コウホートよりも多いといったことである。

仙台市のばあい全体としてみれば昼めんパターンへの転換がもっとも多いが、新しいコウホートでは朝パン食パターンを中心として朝欠食パターンの選択傾向が強いということは、これからの仙台市の主食パターンの転換を考察するばあい留意すべきであろう。

表6は熊本市を示したものであるが、すでにのべた如く全体としては3食米飯パターンからの転換は朝パン食パターンに集中している。しかし、コウホート別にみるとやはり留意すべき点が見られる。それは昭和27～31年のもっとも新しいコウホートのばあいであって、朝パン食パターンへの転換と同じ割合で朝欠食パターンへの転換がみられることである。もっとも対象数は17で極めて少ないが、朝パン食パターンと朝欠食パターンの2つのパターンが新しいコウホートの3食米飯パターンからのもっとも主要な転換パターンであることは十分に理解されることである。大正11～昭和1年のコウホートのみは、昼めんパターンが第1の転換パターンであって、朝パン食パターンが第2位となっている。

表5 3食米飯パターンからの変化

仙 台 市 (%)

コウホート別	3食米飯から変化した者	3食米飯から変化していったパターン					
		131	141	411	011	431	その他
25 - 29 歳 (昭27 - 31)	100.0 (27)	3.7	18.5	37.0	22.2	18.5	-
30 - 34 歳 (昭22 - 26)	100.0 (56)	26.8	10.7	41.1	14.3	7.1	-
35 - 39 歳 (昭17 - 21)	100.0 (53)	35.8	9.4	28.3	17.0	1.9	7.5
40 - 44 歳 (昭12 - 16)	100.0 (48)	43.8	10.4	22.9	10.4	4.2	8.3
45 - 49 歳 (昭7 - 11)	100.0 (66)	42.4	16.7	21.2	7.6	12.1	-
50 - 54 歳 (昭2 - 6)	100.0 (65)	44.6	16.9	29.2	4.6	1.5	3.1
55 - 59 歳 (大11 - 昭1)	100.0 (62)	51.6	17.7	19.4	4.8	6.5	-
60 - 64 歳 (大6 - 10)	100.0 (59)	49.2	23.7	15.3	-	3.4	8.5
計	100.0 (436)	39.9	15.6	25.9	8.9	6.2	3.4

備考) 記号 131 = 昼めん朝夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 411 = 朝パン昼夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
() 内数値は実数を示した。

表6 3食米飯パターンからの変化

熊本市 (%)

コウホート別	3食米飯から変化した者	3食米飯から変化していったパターン					
		131	141	411	011	431	その他
25 - 29歳 (昭27-31)	100.0 (17)	11.8	17.6	29.4	29.4	11.8	-
30 - 34歳 (昭22-26)	100.0 (48)	18.8	16.7	45.8	10.4	4.2	4.2
35 - 39歳 (昭17-21)	100.0 (29)	21.9	12.5	40.6	9.4	3.1	3.1
40 - 44歳 (昭12-16)	100.0 (35)	22.9	17.1	37.1	14.3	2.9	2.9
45 - 49歳 (昭7-11)	100.0 (61)	19.7	27.9	36.1	13.1	3.3	-
50 - 54歳 (昭2-6)	100.0 (61)	29.5	23.0	37.7	3.3	4.9	1.6
55 - 59歳 (大11-昭1)	100.0 (49)	38.8	16.3	28.4	4.1	2.0	10.2
60 - 64歳 (大6-10)	100.0 (51)	17.6	27.5	33.3	3.9	2.0	15.7
計	100.0 (351)	23.9	21.0	36.6	9.1	3.7	5.4

備考) 記号 131 = 昼めん朝夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 411 = 朝パン昼夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
() 内数値は実数を示した.

さらにまた、昭和27～31年のもっとも新しいコウホートでは、3食米飯パターンから転換するばあいある特定のパターンに集中することなくあらゆるパターンに分散していることが注目される。仙台市のばあいも同様であって、3食米飯パターンという伝統的主食パターンが変化していくとき、特にこの新しいコウホートの主食パターン選択の多様化に留意する必要がある。

表7は宮城県の石巻市、古川市を合計して示したものである。ここでは3食米飯パターンから転換するもっとも主要なものは昼めんパターンであって、この傾向は仙台市以上に強くあらわれている。宮城県の中の地方都市的特徴をあらわすものであろう。

しかし、ここでも注目を要する点は新しいコウホートである。昼めんパターンに次いで朝パン食パターンや昼パン食パターンが主要な転換パターンとなっていることである。特に、昭和27～31年のコ

表7 3食米飯パターンからの変化

石巻・古川市計 (%)

コウホート別	3食米飯から変化した者	3食米飯から変化していったパターン					
		131	141	411	011	431	その他
25 - 29歳 (昭27-31)	100.0 (50)	30.0	18.0	26.0	16.0	8.0	2.0
30 - 34歳 (昭22-26)	100.0 (119)	37.8	20.2	26.9	5.0	2.5	7.6
35 - 39歳 (昭17-21)	100.0 (142)	49.3	16.9	21.1	7.0	2.8	2.8
40 - 44歳 (昭12-16)	100.0 (170)	43.5	21.8	20.0	3.5	5.3	5.9
45 - 49歳 (昭7-11)	100.0 (231)	58.0	16.5	16.5	2.2	3.0	3.9
50 - 54歳 (昭2-6)	100.0 (221)	50.7	23.5	14.5	5.4	1.4	4.5
55 - 59歳 (大11-昭1)	100.0 (172)	47.7	27.9	14.0	3.5	3.5	3.5
60 - 64歳 (大6-10)	100.0 (130)	53.1	23.8	10.8	4.6	3.8	3.8
計	100.0 (1,235)	48.7	21.3	17.6	4.8	3.3	4.4

備考) 記号 131 = 昼めん朝夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 411 = 朝パン昼夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
() 内数値は実数を示した.

ウホートでは、昼めんパターンを第1として(30.0%)、朝パン食パターン(26.0%)、昼パン食パターン(18.0%)、朝欠食パターン(16.0%)と広く分散していることが注目される。

表8は熊本県の八代市と荒尾市を合計したものである。ここでも熊本市のばあいと同様、朝パン食パターンへの転換が最大となっているが、昭和2～6年より古いコウホートにおいては朝パン食パターンが最大の転換パターンとなっており、また昼めんパターンへの転換も強く、著しく多様化していることが注目される。たとえば、昭和2～6年コウホートにおいては昼めんパターン30.2%、朝パン食パターン29.4%、昼めんパターン27.8%とこの3つの主食パターンが同じような割合で選択されている。また、昭和27～31年のコウホートの朝欠食パターンが20.0%と高いことは、熊本市の昭和27～31年コウホートの29.4%からも理解されるが、昭和22～26年のコウホートで14.0%、昭和17～21年コウホートの18.3%、昭和12～16年コウホート16.3%、昭和7～11年コウホート13.0%と古いコウホートにおいても高い水準にあることは、どのような事情によるものかは知ることはできないが今後検討を要する重要な問題である。

表8 3食米飯パターンからの変化

八代・荒尾市計 (‰)

コウホート別	3食米飯から変化した者	3食米飯から変化していったパターン					
		131	141	411	011	431	その他
25 - 29歳 (昭27-31)	100.0 (45)	20.0	11.1	42.2	20.0	2.2	4.4
30 - 34歳 (昭22-26)	100.0 (107)	16.8	16.8	43.0	14.0	4.7	4.7
35 - 39歳 (昭17-21)	100.0 (104)	25.0	15.4	37.5	18.3	1.9	1.9
40 - 44歳 (昭12-16)	100.0 (92)	27.2	18.5	32.6	16.3	3.3	2.2
45 - 49歳 (昭7-11)	100.0 (123)	25.2	24.4	31.7	13.0	-	5.7
50 - 54歳 (昭2-6)	100.0 (126)	27.8	30.2	29.4	7.1	1.6	4.0
55 - 59歳 (大11-昭1)	100.0 (157)	24.8	30.6	28.0	7.6	4.5	4.5
60 - 64歳 (大6-10)	100.0 (146)	28.8	26.7	19.9	10.3	4.1	10.3
計	100.0 (900)	25.0	23.4	31.4	12.2	2.9	5.0

備考) 記号 131 = 昼めん朝夕米飯, 141 = 朝パン昼夕米飯, 411 = 朝パン昼夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
() 内数値は実数を示した。

IV 3食米飯パターンの参入・離脱構造

3食米飯パターンを中心として、このパターンから他の主食パターンに転換したものと反対に他の主食パターンから3食米飯パターンに参入してきたものについて考察してみよう。すでにふれた如く、ある主食パターンの変化は、そのパターンから離脱(転出)したものと新しく参入(転入)してきたものとの差によって決定される。そこで、ここでは特に仙台市と熊本市の3食米飯パターンのこのような動態的变化についての集計を行った。その結果を示すと表9(仙台市)、表10(熊本市)の如くである。

表9の(イ)では仙台市の3食米飯パターンへの参入の状況をコウホート別に示したものである。20～24歳から25～29歳までの5年間に新しく3食米飯パターンに参入してきたものは新しいコウホートほど多く、昭和27～31年コウホートでは22.6%、昭和22～26年コウホートでは20.4%と20%を越えているが、昭和17～21年コウホートでは11.2%、それ以上の古いコウホートでは10%未満となっている。

表9 仙台市の3食米飯パターンの参入・離脱状況

(イ) 3食米飯パターンのコウホート別変化(参入): 仙台市

年齢	コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-大10
20~24→25~29変化 不変		62(100.0)	83(100.0)	72(100.0)	82(100.0)	98(100.0)	104(100.0)	96(100.0)	87(100.0)
		48(77.4)	66(79.5)	64(88.9)	76(92.7)	95(96.9)	100(96.2)	91(94.8)	85(97.7)
	131	3(4.8)	3(3.6)	1(1.4)	-(-)	1(1.0)	-(-)	3(3.1)	1(1.1)
	141	-(-)	2(2.4)	1(1.4)	3(3.7)	2(2.0)	2(1.9)	-(-)	-(-)
	411	4(6.5)	6(7.2)	4(5.6)	-(-)	-(-)	1(1.0)	1(1.0)	-(-)
	011	4(6.5)	4(4.8)	1(1.4)	2(2.4)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
431	2(3.2)	2(2.4)	1(1.4)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	
25~29→30~34変化 不変			71(100.0)	63(100.0)	62(100.0)	87(100.0)	90(100.0)	91(100.0)	90(100.0)
			60(84.5)	53(84.1)	59(95.2)	84(96.6)	86(95.6)	89(97.8)	85(94.4)
	131		3(4.2)	3(4.8)	2(3.2)	2(2.3)	2(2.2)	1(1.1)	2(2.2)
	141		-(-)	2(3.2)	-(-)	-(-)	1(1.1)	-(-)	-(-)
	411		5(7.0)	3(4.8)	1(1.6)	1(1.1)	-(-)	1(1.1)	1(1.1)
	011		-(-)	2(3.2)	-(-)	-(-)	1(1.1)	-(-)	-(-)
431		3(4.2)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	
30~34→35~39変化 不変				58(100.0)	54(100.0)	67(100.0)	84(100.0)	83(100.0)	79(100.0)
				52(89.7)	51(94.4)	67(100.0)	82(97.6)	83(100.0)	79(100.0)
	131			4(6.9)	-(-)	-(-)	2(2.4)	-(-)	-(-)
	141			-(-)	1(1.9)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	411			1(1.7)	1(1.9)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	011			1(1.7)	1(1.9)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
431			-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	
35~39→40~44変化 不変					59(100.0)	55(100.0)	72(100.0)	72(100.0)	73(100.0)
					52(88.1)	55(100.0)	70(97.2)	72(100.0)	72(98.6)
	131				6(10.2)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	141				1(1.7)	-(-)	1(1.4)	-(-)	1(1.4)
	411				-(-)	-(-)	1(1.4)	-(-)	-(-)
	011				-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
431				-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	
40~44→45~49変化 不変						50(100.0)	54(100.0)	58(100.0)	62(100.0)
						49(98.0)	53(98.1)	57(98.3)	61(98.4)
	131					-(-)	1(1.9)	1(1.7)	1(1.6)
	141					-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	411					-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	011					-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
431					1(2.0)	-(-)	-(-)	-(-)	
45~49→50~54変化 不変							48(100.0)	41(100.0)	50(100.0)
							48(100.0)	40(97.6)	49(98.0)
	131						-(-)	-(-)	-(-)
	141						-(-)	1(2.4)	-(-)
	411						-(-)	-(-)	1(2.0)
	011						-(-)	-(-)	-(-)
431						-(-)	-(-)	-(-)	
50~54→55~59変化 不変								39(100.0)	45(100.0)
								37(94.9)	41(91.1)
	131							1(2.6)	3(6.7)
	141							1(2.6)	1(2.2)
	411							-(-)	-(-)
	011							-(-)	-(-)
431							-(-)	-(-)	
55~59→60~64変化 不変									41(100.0)
									40(97.6)
	131								-(-)
	141								-(-)
	411								-(-)
	011								-(-)
431								-(-)	

備考) 記号 411 = 朝パン昼夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 131 = 昼めん朝夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
431 = 朝パン昼めん夕米飯. なお, 不詳は除いた. () 内数値は割合を示した.

(ロ) 3食米飯パターンのコウホート別変化(離脱): 仙台市

年齢	コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-大10
20~24→25~29変化 不変		75(100.0) 48(64.0)	104(100.0) 66(63.5)	94(100.0) 64(68.1)	94(100.0) 76(80.9)	112(100.0) 95(84.8)	109(100.0) 100(91.7)	97(100.0) 91(93.8)	92(100.0) 85(92.4)
131		1(1.3)	11(10.6)	14(14.9)	7(7.4)	7(6.3)	4(3.7)	4(4.1)	3(3.3)
141		5(6.7)	4(3.8)	2(2.1)	3(3.2)	3(2.7)	1(0.9)	1(1.0)	1(1.1)
411		10(13.3)	15(14.4)	7(7.4)	4(4.3)	4(3.6)	2(1.8)	1(1.0)	1(1.1)
011		6(8.0)	5(4.8)	6(6.4)	1(1.1)	2(1.8)	2(1.8)	-(-)	-(-)
431		5(6.7)	3(2.9)	-(-)	2(2.1)	1(0.9)	-(-)	-(-)	1(1.1)
25~29→30~34変化 不変			83(100.0) 60(72.3)	72(100.0) 53(73.6)	82(100.0) 59(72.0)	98(100.0) 84(85.7)	104(100.0) 86(82.7)	96(100.0) 89(92.7)	87(100.0) 85(97.7)
131			6(7.2)	2(2.8)	15(18.3)	7(7.1)	8(7.7)	5(5.2)	2(2.3)
141			2(2.4)	3(4.2)	1(1.2)	2(2.0)	3(2.9)	1(1.0)	-(-)
411			10(12.0)	7(9.7)	4(4.9)	3(3.1)	6(5.8)	1(1.0)	-(-)
011			3(3.6)	3(4.2)	1(1.2)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
431			2(2.4)	1(1.4)	-(-)	2(2.0)	1(1.0)	-(-)	-(-)
30~34→35~39変化 不変				63(100.0) 52(82.5)	62(100.0) 51(82.3)	87(100.0) 67(77.0)	90(100.0) 82(91.1)	91(100.0) 83(91.2)	90(100.0) 79(87.8)
131				5(7.9)	1(1.6)	8(9.2)	5(5.6)	3(3.3)	5(5.6)
141				3(4.8)	1(1.6)	3(3.4)	2(2.2)	3(3.3)	4(4.4)
411				3(4.8)	4(6.5)	6(6.9)	1(1.1)	1(1.1)	2(2.2)
011				-(-)	3(4.8)	1(1.1)	-(-)	1(1.1)	-(-)
431				-(-)	-(-)	2(2.3)	-(-)	-(-)	-(-)
35~39→40~44変化 不変					54(100.0) 52(96.3)	67(100.0) 55(82.1)	84(100.0) 70(83.3)	83(100.0) 72(86.7)	79(100.0) 72(91.1)
131					1(1.9)	7(10.4)	7(8.3)	5(6.0)	3(3.8)
141					-(-)	1(1.5)	2(2.4)	2(2.4)	2(2.5)
411					1(1.9)	1(1.5)	2(2.4)	2(2.4)	1(1.3)
011					-(-)	1(1.5)	1(1.2)	-(-)	-(-)
431					-(-)	2(3.0)	1(1.2)	2(2.4)	1(1.3)
40~44→45~49変化 不変						55(100.0) 49(89.1)	72(100.0) 53(73.6)	72(100.0) 57(79.2)	73(100.0) 61(83.6)
131						1(1.8)	8(11.1)	8(11.1)	7(9.6)
141						2(3.6)	3(4.2)	1(1.4)	-(-)
411						1(1.8)	7(9.7)	4(5.6)	4(5.5)
011						1(1.8)	-(-)	-(-)	-(-)
431						1(1.8)	-(-)	2(2.8)	-(-)
45~49→50~54変化 不変							54(100.0) 48(88.9)	58(100.0) 40(69.0)	62(100.0) 49(79.0)
131							2(3.7)	9(15.5)	6(9.7)
141							2(3.7)	4(6.9)	4(6.5)
411							2(3.7)	4(6.9)	-(-)
011							-(-)	1(1.7)	-(-)
431							-(-)	-(-)	-(-)
50~54→55~59変化 不変								41(100.0) 37(90.2)	50(100.0) 41(82.0)
131								1(2.4)	4(8.0)
141								1(2.4)	3(6.0)
411								1(2.4)	2(4.0)
011								1(2.4)	-(-)
431								-(-)	-(-)
55~59→60~64変化 不変									45(100.0) 40(88.9)
131									2(4.4)
141									1(2.2)
411									2(4.4)
011									-(-)
431									-(-)

備考) 記号411 = 朝パン昼夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 131 = 昼めん朝夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
431 = 朝パン昼めん夕米飯。なお, 不詳は除いた。()内数値は割合を示した。

表10 熊本市の3食米飯パターンの参入・離脱状況

(イ) 3食米飯パターンのコウホート別変化(参入): 熊本市

年齢	コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-大10
20~24→25~29変化 不変		71(100.0)	110(100.0)	89(100.0)	102(100.0)	143(100.0)	137(100.0)	119(100.0)	127(100.0)
	131	61(85.9)	89(80.9)	77(86.5)	94(92.2)	141(98.6)	132(96.4)	115(96.6)	127(100.0)
	141	-(-)	3(2.7)	4(4.5)	2(2.0)	2(1.4)	2(1.5)	2(1.7)	-(-)
	411	-(-)	1(0.9)	3(3.4)	2(2.0)	-(-)	1(0.7)	1(0.8)	-(-)
	011	5(7.0)	6(5.5)	3(3.4)	2(2.0)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	431	3(4.2)	9(8.2)	2(2.2)	2(2.0)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
25~29→30~34変化 不変			92(100.0)	83(100.0)	90(100.0)	134(100.0)	130(100.0)	117(100.0)	128(100.0)
	131		82(89.1)	73(88.0)	88(97.8)	130(97.0)	126(96.9)	115(98.3)	119(93.0)
	141		1(1.1)	5(6.0)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	3(2.3)
	411		1(1.1)	1(1.2)	1(1.1)	2(1.5)	2(1.5)	-(-)	-(-)
	011		2(2.2)	2(2.4)	1(1.1)	1(0.7)	-(-)	-(-)	-(-)
	431		4(4.3)	2(2.4)	-(-)	1(0.7)	1(0.8)	-(-)	-(-)
30~34→35~39変化 不変				73(100.0)	74(100.0)	125(100.0)	126(100.0)	115(100.0)	130(100.0)
	131			70(95.9)	73(98.6)	122(97.6)	121(99.0)	113(98.3)	125(96.2)
	141			-(-)	-(-)	2(1.6)	1(0.8)	1(0.9)	1(0.8)
	411			2(2.7)	1(1.4)	-(-)	-(-)	-(-)	2(1.5)
	011			-(-)	-(-)	1(0.8)	2(1.6)	-(-)	-(-)
	431			1(1.4)	-(-)	-(-)	1(0.8)	-(-)	-(-)
35~39→40~44変化 不変					68(100.0)	110(100.0)	113(100.0)	110(100.0)	130(100.0)
	131				67(98.5)	104(94.5)	110(97.3)	109(99.1)	126(96.9)
	141				-(-)	3(2.7)	1(0.9)	-(-)	1(0.8)
	411				1(1.5)	-(-)	2(1.8)	-(-)	1(0.8)
	011				-(-)	1(0.9)	-(-)	-(-)	-(-)
	431				-(-)	1(0.9)	-(-)	-(-)	1(0.8)
40~44→45~49変化 不変						102(100.0)	94(100.0)	103(100.0)	128(100.0)
	131					99(97.1)	92(97.9)	101(98.1)	126(98.4)
	141					-(-)	1(1.1)	-(-)	1(0.8)
	411					1(1.0)	1(1.1)	1(1.0)	1(0.8)
	011					2(2.0)	-(-)	-(-)	-(-)
	431					-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
45~49→50~54変化 不変							83(100.0)	86(100.0)	118(100.0)
	131						80(96.4)	86(100.0)	116(98.3)
	141						1(1.2)	-(-)	-(-)
	411						-(-)	-(-)	2(1.7)
	011						2(2.4)	-(-)	-(-)
	431						-(-)	-(-)	-(-)
50~54→55~60変化 不変								79(100.0)	107(100.0)
	131							77(97.5)	105(98.1)
	141							1(1.3)	1(0.9)
	411							1(1.3)	-(-)
	011							-(-)	1(0.9)
	431							-(-)	-(-)
55~54→60~64変化 不変									102(100.0)
	131								100(98.0)
	141								-(-)
	411								1(1.0)
	011								1(1.0)
	431								-(-)

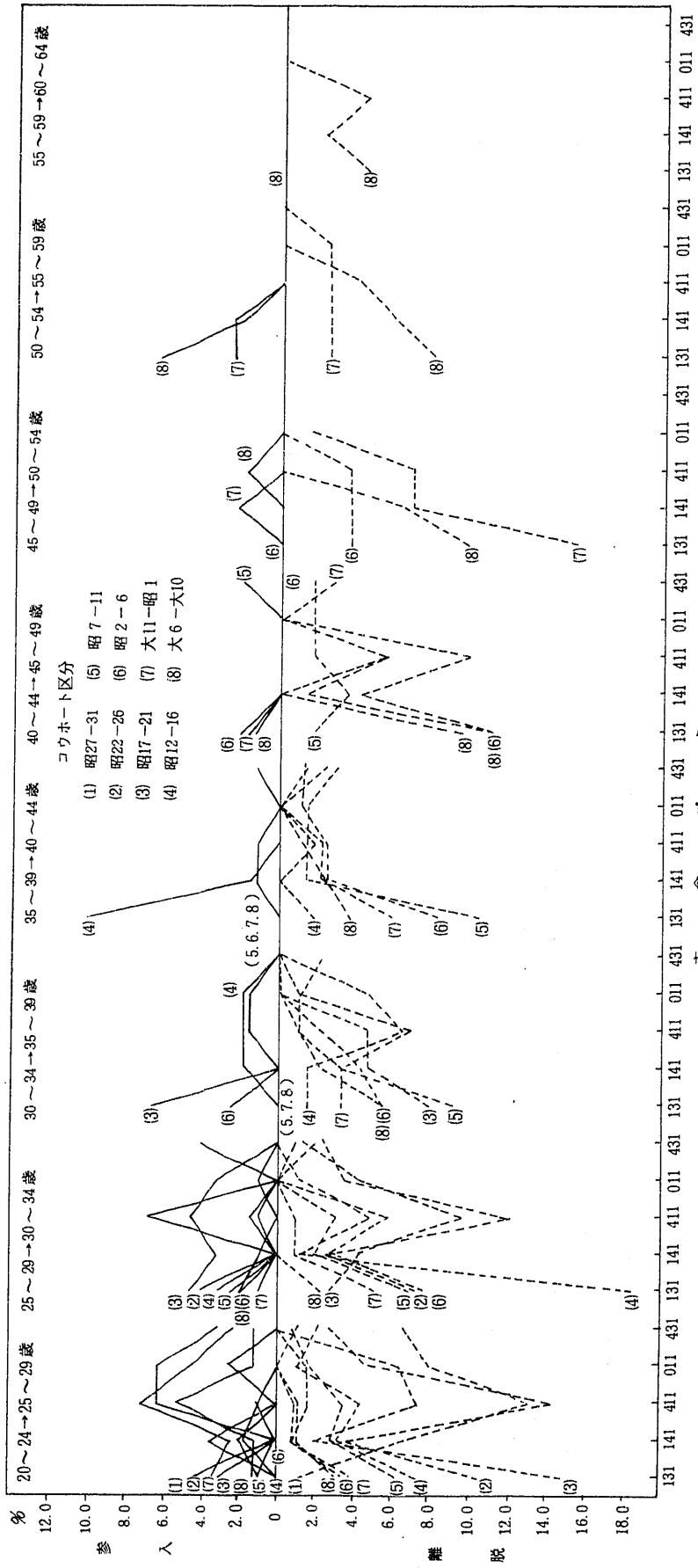
備考) 記号411 = 朝パン昼夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 131 = 昼めん朝夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
431 = 朝パン昼めん夕米飯. なお, 不詳は除いた。() 内数値は割合を示した.

(ロ) 3食米飯パターンのコウホート別変化(離脱): 熊本市

年齢 \ コウホート	昭27-31	昭22-26	昭17-21	昭12-16	昭7-11	昭2-6	大11-昭1	大6-大10
20~24→25~29変化 不変	78(100.0) 61(78.2)	116(100.0) 89(76.7)	89(100.0) 77(86.5)	97(100.0) 94(96.9)	152(100.0) 141(92.8)	134(100.0) 132(98.5)	119(100.0) 115(96.6)	136(100.0) 127(93.4)
131	2(2.6)	7(6.0)	3(3.4)	-(-)	4(2.6)	-(-)	1(0.8)	3(2.2)
141	3(3.8)	3(2.6)	2(2.2)	2(2.1)	3(2.0)	1(0.7)	-(-)	-(-)
411	5(6.4)	9(7.8)	5(5.6)	1(1.0)	3(2.0)	1(0.7)	-(-)	-(-)
011	5(6.4)	5(4.3)	2(2.2)	-(-)	1(0.7)	-(-)	-(-)	-(-)
431	2(2.6)	2(1.7)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
25~29→30~34変化 不変		110(100.0) 82(74.5)	89(100.0) 73(82.0)	102(100.0) 88(86.3)	143(100.0) 130(90.9)	137(100.0) 126(92.0)	119(100.0) 115(96.6)	127(100.0) 119(93.7)
131		2(1.8)	6(6.7)	3(2.9)	4(2.8)	3(2.2)	1(0.8)	1(0.8)
141		7(6.4)	3(3.4)	3(2.9)	3(2.1)	4(2.9)	-(-)	4(3.1)
411		7(15.5)	6(6.7)	3(2.9)	5(3.5)	3(2.2)	2(1.7)	1(0.8)
011		-(-)	1(1.1)	2(2.0)	1(0.7)	1(0.7)	-(-)	-(-)
431		-(-)	-(-)	1(1.0)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
30~34→35~39変化 不変			83(100.0) 70(84.3)	90(100.0) 73(81.1)	134(100.0) 122(91.0)	130(100.0) 121(93.1)	117(100.0) 113(96.6)	128(100.0) 125(97.7)
131			3(3.6)	4(4.4)	2(1.5)	3(2.3)	1(0.9)	-(-)
141			-(-)	1(1.1)	3(2.2)	4(3.1)	-(-)	1(0.8)
411			7(8.4)	8(8.9)	5(3.7)	1(0.8)	1(0.9)	2(1.6)
011			-(-)	2(2.2)	-(-)	-(-)	1(0.9)	-(-)
431			2(2.4)	2(2.2)	1(0.7)	1(0.8)	1(0.9)	-(-)
35~39→40~44変化 不変				74(100.0) 67(90.5)	125(100.0) 104(83.2)	126(100.0) 110(87.3)	115(100.0) 109(94.8)	130(100.0) 126(96.9)
131				2(2.7)	2(1.6)	4(3.2)	3(2.6)	3(2.3)
141				-(-)	6(4.8)	3(2.4)	2(1.7)	-(-)
411				3(4.1)	7(5.6)	6(4.8)	1(0.9)	1(0.8)
011				1(1.4)	5(4.0)	3(2.4)	-(-)	-(-)
431				1(1.4)	1(0.8)	-(-)	-(-)	-(-)
40~44→45~49変化 不変					110(100.0) 99(90.0)	113(100.0) 92(81.4)	110(100.0) 101(91.8)	130(100.0) 126(96.9)
131					2(1.8)	6(5.3)	3(2.7)	1(0.8)
141					3(2.7)	5(4.4)	3(2.7)	-(-)
411					5(4.5)	8(7.1)	2(1.8)	3(2.3)
011					1(0.9)	-(-)	-(-)	-(-)
431					-(-)	2(1.8)	-(-)	-(-)
45~49→50~54変化 不変						94(100.0) 80(85.1)	103(100.0) 86(83.5)	128(100.0) 116(90.6)
131						4(4.3)	9(8.7)	-(-)
141						2(2.1)	3(2.9)	2(1.6)
411						7(7.4)	4(3.9)	9(7.0)
011						-(-)	1(1.0)	1(0.8)
431						-(-)	-(-)	-(-)
50~54→55~59変化 不変							86(100.0) 77(89.5)	118(100.0) 105(89.0)
131							2(2.3)	1(0.8)
141							2(2.3)	7(5.9)
411							5(5.8)	3(2.5)
011							-(-)	1(0.8)
431							-(-)	1(0.8)
55~59→60~64変化 不変								107(100.0) 100(93.5)
131								2(1.9)
141								3(2.8)
411								-(-)
011								-(-)
431								2(1.9)

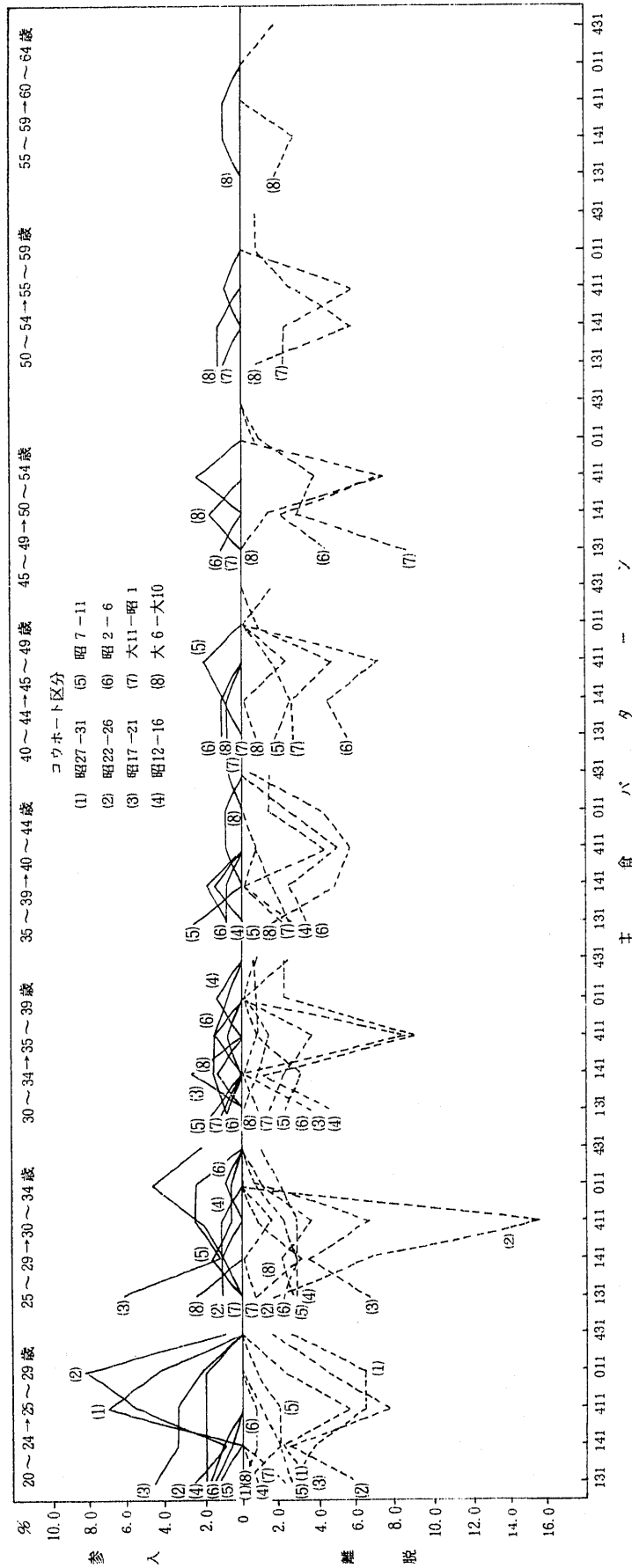
備考) 記号 411 = 朝パン昼夕米飯, 141 = 昼パン朝夕米飯, 131 = 昼めん朝夕米飯, 011 = 朝欠食昼夕米飯
431 = 朝パン昼めん夕米飯. なお, 不詳は除いた. () 内数値は割合を示した.

図1 コウホート別にみた3食米飯パターンからの変化：仙台市



備考) 記号131 = 昼めん, 朝夕米飯, 141 = 昼パン, 朝夕米飯, 411 = 朝パン, 昼夕米飯, 011 = 朝夕食, 昼夕米飯, 431 = 朝パン, 昼めん, 夕米飯

図2 コウホート別にみた3食米飯パターンの変化：熊本市



しかし、実数としては著しく少ないため、3食米飯パターンへ参入前のパターンの傾向を明確に知ることはこんなんであるが、朝パン食パターンからの転換が一般に多いように思われる。また昼めんパターンから3食米飯パターンへの転換も若干みとめられる。特に新しいコウホートでは朝欠食パターンからの転換もみられる。ここでの重要な問題は、他の主食パターンから3食米飯パターンに転換するものが絶対量は大きくないとしても存在するという事実である。

次に表9の(ロ)には、3食米飯パターンからの離脱を示したものである。20~24歳から25~29歳の5年経過の時期に3食米飯パターンから他の主食パターンに転換するものはかなり多く、たとえば昭和27~31年のもっとも新しいコウホートでは36%、昭和22~26年のコウホートでもほぼ同じく36%、昭和17~21年コウホートで32%と高い。それ以上の古いコウホートでは10%前後と低くなっている。また、25~29歳から30~34歳の5年間、30~34歳から35~39歳の5年間と高い年齢での転換は低くなっている。

このような3食米飯パターンからの転換主食パターンは、昭和27~31年、昭和22~26年の新しいコウホートでは朝パン食パターンがもっとも多く、昭和17~21年以上の古いコウホートでは昼めんパターンへの転換が多いことが注目される。昭和22~26年コウホートにおいても朝パン食あるいは昼めんパターンへの転換がみられるが、しかし、どちらかといえば、古いコウホートほど昼めんパターンへの転換傾向が強い。

表10は熊本市についてのもので(イ)は他の主食パターンから3食米飯パターンへの参入状況をコウホート別に示したものである。熊本市の参入率は仙台市のそれに比較すると著しく低い、新しいコウホートの20~24歳から25~29歳の5年間にかけての参入率も15%ないし20%にすぎない。3食米飯パターンに参入してくるばあいの主食パターンは主として朝パン食パターンであることが特徴であるように思われる。また、昭和22~26年のコウホートでは朝欠食パターンから3食米飯パターンに転換したものが、20人の3食米飯パターンへの参入者のうち9人を占めていることが注目される。しかし、いずれにしても対象者が少ないため、あきらかな傾向は把握できないが、朝パン食パターンや朝欠食パターンから3食米飯パターンへの転換者があることに注目すべきである。

表10の(ロ)は、3食米飯パターンからの離脱を示したものである。どのようなパターンに転換していくかを示した離脱率はもちろん参入率よりも大きく、新しいコウホートの20~24歳から25~29歳にかけての5年間の離脱率は20%を越えている。転換する主食パターンの主なものは朝パン食パターンと朝欠食パターンである。すなわちこれらのパターンから3食米飯パターンに転換してくるものより、反対のばあいの方が多い。また、25~29歳から30~34歳への5年の期間あるいは30~34歳から35~39歳への5年の期間においても転換パターンのもっとも多いのは、朝パン食パターンである。熊本市の3食米飯パターンの高い普及性とその転換の特徴をあらわしているようである。

以上においては、3食米飯パターンからの離脱とこのパターンへの参入を別個に考察してきたが、次にこの離脱・参入、つまり人口移動の用語でいえば転入・転出の状況を一括して示すと図5、図6の如くである。

図5は仙台市の3食米飯パターンの離脱・参入の転換構造を各年齢期間別にコウホート別に示したものである。前出の表9、表10の(イ)と(ロ)を同時に示したものであり、その状況をよく理解することができよう。若い年齢の時期である20~24歳から25~29歳の5年の期間、25~29歳から30~34歳にかけての5年の期間における変化の特徴は、3食米飯パターンから昼めんパターンと朝パン食パターンへ、特に前者への離脱が異常にはげしく、これらのパターンから3食米飯パターンへの参入をはるかに上回っている。このことが3食米飯パターンを著しく減少させる要因となっている。30~34歳から35~39歳の5年の期間および35~39歳から40~44歳の5年の期間にかけて、特に後者の年齢期間において昼めんパターンから3食米飯パターンへの参入も著しいことが注目される。また、40~

44歳以上の年齢においては3食米飯パターンからの離脱が目立っているが、特に昼めんパターンへの転換が著しい。

図6は熊本市の3食米飯パターンの離脱・参入の転換構造を示したものである。若い年齢時の期間たとえば20～24歳から25～29歳にかけての5年の期間においては、3食米飯パターンから朝パン食パターンと朝欠食パターンへの離脱とこれらの主食パターンから3食米飯パターンへの参入も著しく、したがって純増加あるいは純減少は一般に小さくなる。しかし、25～29歳から30～34歳にかけての5年の期間は、純減少が全般に著しい。特に、3食米飯パターンから朝パン食パターンへの転換は異常にはげしいが、このことは3食米飯パターンを減少させるもっとも大きな要因となっていると考えられる。年齢の増大と共にみられる一般的な傾向は3食米飯パターンから他の主食パターンへの離脱が、反対の参入よりも著しいことである。特に、3食米飯パターンから朝パン食パターンへの離脱が、朝パン食パターンから3食米飯パターンへの参入よりも多い。朝パン食あるいは昼めんパターンにも同様な傾向がみとめられる。

V 本研究のこれからの課題

主食パターンの変化は筆者が予想した以上に複雑である。たとえば3食米飯パターンが減少したり、あるいは朝欠食パターンが増加したといっても、それは離脱・参入の差であることを理解する必要がある。相互に乗り入れしながら、ネットとしての増加、減少が生じるが、これだけでは主食パターンの変化の実態をあきらかにすることはできない。

人口移動理論におけると同様、転入・転出に対応する離脱・参入の要因分析が必要である。日本の食生活が重大な転換期にあることは周知の通りであるが、人々がどのような理由により、どのような年齢で、どのような転換構造が行われているのか、その地域的差異はどのように変化していくのであろうか。今後は、このような点についての食生活の人口学、社会学、経済学、健康科学の観点からなる総合的研究の必要性が痛感される。

Selectivity of Staple Food-Taking Pattern by the Cohort Analysis

Sumiko UCHINO

My primary concern in this paper focuses on changing features of the dietary life of Japanese people in terms of staple food pattern set for three meals a day. Observations have been made of a remarkable decrease in the traditional food taking pattern of rice-based meals three times a day, and of a rapid increase in the combination of the westernized bread-based breakfast pattern together with rice-based lunch and dinner. Detailed analysis is made of staple food-taking pattern in relation to those demographic and social characteristics such as age-sex, educational attainment, occupation and region. At the same time, analysis is also extended to assess differential effects of migration upon the selective behavior of staple food taking pattern.

However, the change of major staple food pattern has so far been analyzed only in terms of absolute number of decrease or increase. It has neglected an aspect of new additions to take a particular staple food and an aspect of transformation from taking particular staple food to taking another. For this purpose, a field survey was conducted in 1981 covering several cities in Miyagi and Kumamoto Prefectures of Japan.

The rice-based food-taking pattern in three meals is analyzed here to consider mechanisms of new comers to and movers-out of other patterns. The tabulation results for Sendai and Kumamoto Prefectures are shown in Tables 9 and 10 in the text. Table 9 (1) indicates new entries to the rice-based pattern for three meals by cohort. It indicates that new entries are more numerous in the young cohorts than in the old cohorts.

Among the population, however, the staple food-taking patterns before joining the rice-based pattern in three meals a day seem to have been the bread-based pattern for breakfast, although it is not easy to conclude as such because of a small sample for this category. Some are from noodle-based pattern for lunch. It is important to recognize that there are a few additions joining the rice-based food-taking pattern shifting from other patterns.

Table 9 (□) in the Japanese text shows a shift from rice-based pattern of three meals a day to other staple food patterns. Young cohort indicates a higher proportion of movers to other staple food patterns.

Table 10 (1) shows the distribution of conversions by cohort to rice-based pattern three meals a day in Kumamoto. In general, the tendency of converting to rice-based pattern of three meals a day is lower than those in Sendai. The status before conversion was generally a pattern taking bread-based breakfast

once a day. Table 10 (□) represents move-outs of three meals a day rice-based pattern to other staple food patterns. Primary patterns to be preferred for after moving-out of the rice-based pattern are the bread-based breakfast pattern for no food for breakfast.

Transitional mechanisms are much more complicated than what we originally expected. It should be understood that decreases in rice-based food-taking pattern in three meals a day or increases in bread-based breakfast taking pattern are just net results of balancing new comers and movers-out, which do not take into account of these two gross factors, which are similar to in-migrants and out-migrants in migration analysis. Due consideration should be made not only of net increase or decrease of any particular staple food-taking pattern, but also of new additions to and subtractions from the distribution of population according to staple food-taking pattern.

In other words, a factor analysis of net change seems to be useful for finding out a clear picture of transitional mechanism of staple food patterns. Such an approach is of utility to prepare demographic, socio-economic and health science-oriented studies of dietary life among the Japanese people, in response to the rapidly changing behaviour patterns under the aging society.